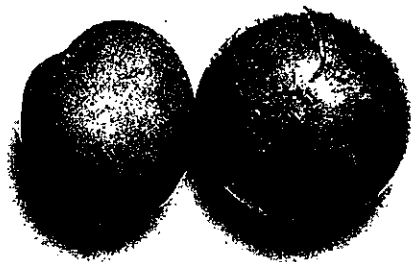




中島紀一

食べものと 農業は おカネだけでは 測れない



コモン

〈著者紹介〉

中島 紀一(なかじま・きいち)

1947年 埼玉県生まれ。

1970年 東京教育大学農学部卒業。

1972年 東京教育大学大学院修了。

東京教育大学農学部助手、筑波大学農林学系助手を経て

1993年 鯉淵学園教授(農業経営学担当)

2001年 茨城大学農学部教授(緑環境システム科学担当)

2003年 日本有機農業学会会長

1987年に筑波山麓・茨城県八郷町に移住し、自然と人情に囲まれて暮らす。また、茨城大学近くの約4haの耕作放棄農地と約10haの山林の利用・再生プロジェクトに農家、学生、市民とともに取り組んでいる。

専 門 総合農学、農業技術論、農業戦略論。

主 著 『農産物の安全性と生産者への期待』日本生活協同組合連合会、1991年。『生協青果物事業の革新的再構築への提言』コープ出版、1998年。『安全な食・豊かな食への展望を探る——食と農のよい関係をつくりたい』芽ばえ社、2003年。

共 著 『安全でおいしい有機米づくり』家の光協会、1993年。『有機農業——岐路に立つ食品安全政策』コモンズ、2003年など。

食べものと農業は

おカネだけでは測れない

二〇〇四年十一月一〇日 初版発行

著 者 中島紀一

©Kichi Nakajima, 2004, Printed in Japan.

発行者 大江正章

発行所 コモンズ

〒161-0033 東京都新宿区下落合一五一一〇一〇〇二

TEL〇三(五三八六)六九七二

FAX〇三(五三八六)六九四五

振替 〇〇一一〇五—四〇〇一一〇

info@commonsonline.co.jp

http://www.commonsonline.co.jp/

印刷／亜細亜印刷・製本／東京美術紙工

乱丁・落丁はお取り替えます。

ISBN4-90640-84-2 C0061

目次 ● 食べものと農業はおカネだけでは測れない

プロローグ 食べものと農業は単なる商品ではない 7

1 食の危機、農の危機、社会の危機 8

2 農業見直し論の大きな誤り 13

第1章 食の異変は時代の必然 17

1 世紀的転形期としての現在 18

2 食をめぐる奇怪な事件の続発 25

3 自然と人間・自然と文明様式の齟齬 36

4 人間の生存を支える食 41

第2章 産業型農業から生活型農業へ 53

1 「自立」した食、「自立」した農という幻想 54

2 解体へと向かう日本農業 58

3 生活型農業の元気 77

4 暮らしの視点からの食と農の再建 87

5 市民主義的な農業という可能性 91

第3章 食の安全政策のターニングポイント 95

1 「現代フードシステムに從属する農業」への構造改革 96

2 「食」と「農」の再生プラン「食の安全・安心政策大綱」の問題点 99

3 「BSE問題に関する調査検討委員会報告」などの再検討 103

4 「農」と「食」の自立的提携へ 110

第4章 「リスク分析」の限界と脱農業政策 115

1 「リスク分析」は万能ではない 116

2 農業問題と「食の安全性」 120

3 「食の安全」を守るのは食と農の協働 136

第5章 食べものの安全性を求める産消提携 139

- 1 産消提携の位置づけの変化 140
- 2 産消提携が広がった背景 142
- 3 産消提携の内部構造 147
- 4 生協産直における産消提携問題 162
- 5 食と農の多元的価値を育てる産消提携 171

第6章 食と農の断絶をどう取り戻すか 177

- 1 充実した食農教育 178
- 2 国が進めてきた食と農の分離 182
- 3 食と農の断絶の進行 188
- 4 新しい食品安全政策における農の食への従属的統合 192

第7章 地産地消の現代的意味 197

- 1 自治体農政の中心的課題となった地産地消 198

- 2 地産地消論と新基本法の認識の違い 200
- 3 自然と農業と地域社会に支えられた自給・自立 201
- 4 地産地消の三つの役割 207

エピローグ 農業らしい農業の新世紀へ 211